

もくじ

- ・ しあわせなハンス

しあわせなハンス

げんさく 原作：
どうわ グリム童話

イラスト： アカミツキ

へんしゅう 編集：
YellowBirdProject

むかし、あるところに、ハンスという、とても人の
 良い若者がいました。家が貧しかったので、ハンスは
 まだ小さい頃に、とあるお金持ちの主人の家に、働き
 に出ました。

それから七年。ハンスは一度も家に戻らず、真面目に、
 一生懸命働いていました。

ある日、ハンスはあるお願いをしに、主人の部屋の
 と戸をたたきました。

「ご主人様。私はもう、長い間、このお屋敷に
 仕えてきました。そろそろ家に帰って、ひとり身の母親と
 一緒に暮らしたいと思っております。そこで、今日まで
 働いた分の、給金をいただけませんか？」

主人は、ハンスの頼みを快く受け入れました。
 そしてハンスに、大きな『金のかたまり』を一つ渡し
 ました。



ハンスは金きんのかたまりぬの つつを布せなかで包み、背せ中に背負おって、
故郷こきょうへ向けて出む発しゅっぱつしました。

屋敷やしきを出でて、初はじめは揚よう々と歩あるいていたハンスでした
が、金きんのかたまりはとておもも重つかく、やがて疲つかれて、
歩あるけなくなあってしまいました。ハンスは、道端みちばたの岩いわの
上うえに腰こしを下おろして、休やすんでいました。

「やあ、こんにちは。疲つかれた顔かおをして、どうしたん
だい？」

立派りっぱな馬うまに乗のった青せい年ねんが、ハンスに話はなしかけてきま
した。

「実じつはぼく、重おもたい荷物にもつを持もっていて、とてたいへんも大たい変へん
なんです」

「重おもたい荷物にもつ？それは一い体たいなんだね」

「はい、この金きんのかたまりです」

「ええ！金きんのかたまり！！」

青せい年ねんの声色こゑいろが、急きゅうにか変わかりました。

